

和歌山だよいい

平成25年 5月号



みかんの花（有田市）

CONTENTS

1. 知事メッセージ…………… P1
2. 和歌山県政トピックス…P2～P9
3. お知らせ…………… P10～P15
4. ふるさと歳時記…………… P16



紀の国わかやま国
体へご協力お願い
いたします

「チャーチルの言葉」

第二次世界大戦時から戦後にかけての英国の首相チャーチルは「皮肉屋」で有名ですが、民主主義について次のような言葉を残しています。

「民主主義は最悪の政治形態である。ただし、過去の他のすべての政治形態を除いては。」英国流の皮肉(アイロニーと言います)が効いた中々いい言葉だと思います。民主主義はとても大事なことですが、数学的な真理というような絶対的なものではなく、人類が長く苦しい経験を積んできた中で、一番「まし」なものとして手中にしたものであるということでしょう。民主主義という大上段に振りかぶらなくても、現実の政治や行政には、どこから見ても絶対に一番というものは中々なくて、大抵は、あちらがよいので、やってみようとする、こちらに副作用が予想されて、どうしようかと迷うようなものがいっぱいあります。とは言え、政治や行政の責任者はそれらを全部考えた挙げ句、肝をくくってこちらと決めなければなりません。大抵たくさんの代替案がありますから、その中で一番「まし」なものを選ぶというのが本当の姿です。

しかし、現実の、特に政治の世界では、中々そうは思ってはもらえません。派手な人が、大変魅力的なビジョンを語ると、人々は、上記のようなものごとの本質を忘れて、わーっと飛びついてしまう傾向があるように思います。そして熱が冷めると、内在していた現実と論理の復讐が始まるのです。

だから和歌山県では、我々県政をリードする者は、現実をあらゆる方向からよく考えた上で、一番「まし」な方向を選択し、着実に実行してゆきたいと思います。さらにその選択に当たっては、県民の皆さんお一人お一人にこの方向が本当に一番「まし」なものかどうかよく考えてもらって、その議論の総意を汲んでいきたいと思っています。



4/15 ラグビートップリーグ
義援金贈呈式にて

今月の和歌山県政トピックス

* 最近の県政の動きや県内の話題などをピックアップしてお届けします。

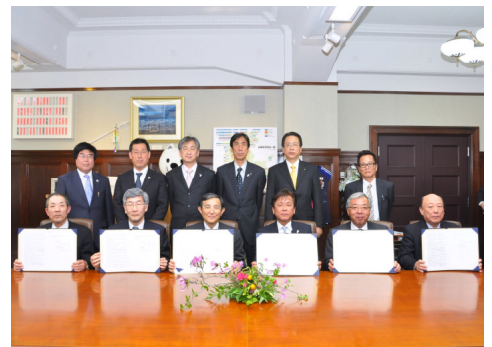
●海外初の「和歌山県観光大使」が誕生

- ・香港は、本県への外国人宿泊者数が最も多く、今後のインバウンドの取組において最も重要な地域です。
- ・4月1日、この香港において訪日団体旅行の取扱いが第一位である「EGLツアーズ」の袁文英 董事総経理に、和歌山県観光大使に就任いただく委嘱式が、和歌山電鐵貴志川線貴志駅で行われました。
- ・三毛猫の「ニタマ」伊太祈曽駅駅長兼貴志駅駅長代行も見守るなか、仁坂知事から海外初の観光大使に委嘱状が手渡されました。
- ・委嘱式で、仁坂知事から「これからも和歌山県が香港からの多くのお客様で賑わうよう、お力添えを頂きたい。」と期待が寄せられました。
- ・一方、袁董事総経理からは「『和歌山県いいね』を合言葉に、もっと多くの香港人にPRしていきたい。」と抱負を語られました。
- ・今後、メディア出演、講演等の場において本県の観光資源の魅力を広く発信し、香港における本県の認知度を高めるとともに、香港からの観光客の送客拡大が期待されます。



●高齢者の見守り活動に関する協力体制がスタート

- ・県内の65歳以上のひとり暮らし高齢者は約56,000人で、高齢者の5人に1人がひとり暮らしとなっており、今後も増加が見込まれます。
- ・このような中で、平成21年度に地域全体で相互に見守り、支え合える地域づくりを目指し、地域の民生委員・児童委員の皆さんが、普段の生活のなかでのさりげない見守りや声かけ等を行う「地域見守り協力員制度」を創設し、福祉協力体制の構築・拡充を図ってきました。
- ・さらに、この度、民間事業者5団体と高齢者世帯の見守り活動に協力いただく協定を締結することとなり、4月9日、調印式が行われました。
- ・ひとり暮らしの高齢者等が住み慣れた地域で、安全・安心な生活を送れるように、高齢者と接する機会の多い民間事業者と連携することによって、孤独死や消費者被害の恐れのある高齢者等をいち早く発見し、行政の支援につなげることが目的です。
- ・高齢者宅を日々訪問している新聞販売業者や郵便局などの社員が、郵便受けに新聞が放置されているなどの異常を発見した場合、市町村の担当窓口連絡、緊急性が高い場合は警察、消防に通報していただく仕組みになっています。
- ・協定の締結式において、仁坂知事は「和歌山は高齢化率が高くひとり暮らし世帯も多い。何か起きたときに対応するために見守り活動は重要になる。協定を結ぶことができ大変ありがたい。」とお礼を述べました。
- ・県の全域を範囲とする県と民間業者との見守り協定は全国初です。



○協力民間事業者

関西電力株式会社和歌山支店、J Aグループ和歌山(県内全J A)
社団法人日本新聞販売協会和歌山市支部・紀北支部・紀南支部
日本郵便株式会社(県内全郵便局)、和歌山ヤクルト販売株式会社

●和歌山の偉人「山田猪三郎」が伝記に

・和歌山市出身で、日本初の国産飛行船を開発した山田猪三郎の功績を広く知ってもらおうと、市民有志で作る顕彰会は、児童向けの伝記「山田猪三郎物語～大空へかけた夢～」を発行し、没後100年に当たる4月8日に、出版を記念する式典が和歌山市内で開かれました。

・式典の冒頭仁坂知事は「和歌山出身の立派な先人の功績を後世に伝えることは、本当に有意義なことです。この本をきっかけとして、山田猪三郎さんの業績について、子どもたちをはじめ県内外の方に末永く伝えられるよう願っています。」と挨拶しました。

・残された数少ない資料をもとに、猪三郎の飛行船などをイラストでわかりやすく紹介されているこの本は1,000部制作され、県内の小中高大学に寄贈されます。また、和歌山の書店でも2,000円で発売されます。



※山田猪三郎

- 文久 3年(1863) 現在の和歌山市に生まれる。
- 明治25年(1892) 港区芝浦でゴムを使った救難浮輪の製造所を開設。
- 明治30年(1897) 気球の研究に着手。
- 明治43年(1910) 山田式1号飛行船を完成させ、品川区大崎から目黒区駒場間を2日がかりで国産飛行船による初の往復飛行。第3号飛行船は大崎から品川、お台場を巡る総飛行距離20kmの循環飛行に成功。
- 大正 2年(1913) 51歳で亡くなる。
- 昭和 4年(1934) 和歌山市和歌浦の高津子山のふもとに有志により顕彰碑建立。

●国体まであと「〇〇日」 県庁前にカウントダウンボード設置

・4月9日、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の企業協賛制度におけるオフィシャルサプライヤーとして決定した農林中央金庫大阪支店、コスモパーク加太でメガソーラー発電を運営する株式会社ウエストホールディング及び株式会社ホンダ四輪販売南近畿への感謝状贈呈式が県庁正面玄関前において行われました。

・オフィシャルサプライヤーは100万円相当以上の物品等を提供や貸与していただく企業で、農林中央金庫大阪支店からは紀州材を使用したカウントダウンボード及びプランター、ほか2社からは自動車が提供されました。

・贈呈式では、農林中央金庫大阪支店 後藤 彰三 支店長、株式会社ウエストホールディングス 大畑 康壽 代表取締役社長及び株式会社ホンダ四輪販売南近畿 杉本 光司 常務取締役から、仁坂知事へ目録が手渡されました。

・知事からは感謝状、マスコット「きいちゃん」のぬいぐるみ及び国体・大会イメージソング「明日へと」のCDをお渡ししました。

・農林中央金庫大阪支店から提供いただいたカウントダウンボードは、幅2.7m、高さ1.8m、奥行き0.9mで、紀州材のヒノキを使って製作されており、県庁正面で国体開催までの残日数を刻んでいきます。



●ラグビートップリーグのオールスター戦

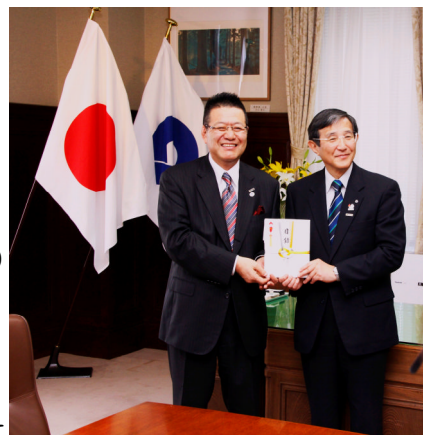
「FOR ALL チャリティーマッチ in 和歌山」の収益金を贈呈

・4月15日、公益財団法人日本ラグビーフットボール協会 稲垣純一事業委員長らは、3月3日に紀三井寺で開催されたラグビートップリーグのオールスター戦「FOR ALL チャリティーマッチ in 和歌山」の収益の一部を紀伊半島大水害の義援金として、仁坂知事に目録を手渡しました。

・入場料、スポンサー企業、会場イベントで集まった180万円の義援金のほか、選手のサイン入りラグビーボールやユニホームも贈られました。

・仁坂知事は、「大会を盛り上げていただいたうえに、義援金もいただき感謝している。また、華麗なる技を見せていただいたので、和歌山のラグビーのチームも強くなるよう頑張りたい。」と述べました。

・義援金は被害の大きかった5市町の体育協会に贈られ、スポーツ振興を通じた復興支援に充てられる予定です。



●わかやま結婚支援事業をスタートします！

・県内の生涯未婚率は男性16.7%、女性9.2%(平成22年)で10年前と比較すると男女とも約5ポイント増加し、人口の減少率は0.73%(平成24年)と近畿で最も高くなっています。

・少子化の大きな要因である未婚化、晩婚化の流れを変えるため、県内各地で出会いの場の創出と、全県的な結婚サポート体制を推進する事業がスタートします。

<事業内容>

○県主催の婚活イベントの開催

・6月から県内各地で婚活イベントを24回開催します。

・初回の県立自然博物館を利用した「閉館後の夜の水族館」イベント、田辺市のパーティー型イベントを皮切りに、毎月2～4回程度開催の予定です。

・「体験型」「パーティー型」など趣向を凝らした企画で出会いの場を創出します。

○「わかやま婚活応援隊」の募集・登録

・様々な方面から男女の出会いを応援する団体(市町村、NPO、企業等)を募集、応援隊として登録し、全県的な結婚支援活動に発展させていきます。

・応援隊は、自主企画の出会いイベントの開催、イベント場所の提供や、飲食等の割引サービス等の提供、イベントのPR・広報など支援していただきます。

○「わかやま婚活応援隊」への支援

・県は、応援隊情報を県HPサイト「わかやま出会いの広場」で発信及び広報・PR、応援隊主催のイベントにプロの司会者を派遣、婚活イベントのノウハウセミナーや交流会を開催するなど応援隊を支援します。

詳しくは「わかやま出会いの広場」をご覧ください。

<https://www.mirai-kirakira.jp/index.php?/encounter>

●株式会社河鶴がみなべ町に新工場を建設

- ・株式会社河鶴は、全国小売店・大手量販店に和歌山名産の紀ノ川漬をはじめとする漬物を製造販売している昭和25年創業の企業で、和歌山市に本社があります。
- ・この度、梅干しの製造拠点を新設し、当社のもつ流通販路により県外に向けた事業拡張のため、みなべ町に新工場を建設することとなりました。

●藤本食品株式会社が岩出市に新本社工場を竣工

- ・4月2日、藤本食品株式会社が岩出市に新本社工場を拡張移転し、竣工式が行われました。
- ・藤本食品株式会社は、昭和48年に和歌山市において惣菜の製造を始めた企業です。その後、中食産業の成長に伴い、大阪、兵庫など6府県に製造工場を展開し、山口県から愛知県に至る各府県の取引先約3,600店舗に弁当、おにぎり、寿司類、惣菜等を提供しています。
- ・新工場では、弁当、おにぎり、総菜類などの製造体制を増強し、県外での事業拡張を行います。



●セイカ株式会社が海南市に新工場を竣工

- ・4月12日、セイカ株式会社が海南市に新工場を建設し、竣工式が行われました。
- ・セイカ株式会社は、和歌山市内に本社、海南市藤白に工場を持ち、ウレタン樹脂硬化剤、機能性高分子原料などの製造・販売を行っています。
- ・新工場では、セイカ独自の技術による高性能エポキシ樹脂の硬化剤を製造する予定で、この製品は、航空機の機体に使用される炭素繊維複合材の硬化剤として不可欠です。



●理工協産株式会社が「紀北橋本エコヒルズ紀ノ光台」に新工場竣工

- ・4月18日、東京都中央区に本社を置く理工協産株式会社が、「紀北橋本エコヒルズ紀ノ光台」に新工場を建設し、竣工式が行われました。
- ・理工協産株式会社は、日本で初めて食品製造工程における業務用洗浄剤の開発と製造に成功した企業で、創業以来、一貫して業務用洗浄剤を製造・販売し、食品加工業界において確固たる市場地位を確立されています。
- ・今回、事業基盤の強化及び取引先の安定供給を確実にするため、関西地域で初めての工場を橋本市へ建設することとなりました。



上記3件を含め、平成19年以来の企業立地件数は116件となりました。

●農林水産業競争力アップ技術開発の研究テーマ決定

- ・和歌山県の農林水産業を牽引する新たな技術開発を加速するため、平成24年度に「農林水産業競争力アップ技術開発」を創設しました。
- ・平成25年度から取り組む研究テーマについて広く募集したところ、154件の提案があり、学識経験者等の評価をいただいたうえで、研究テーマを決定しました。
- ・今年度からの新規テーマは以下のとおりです。

研究テーマ	試験研究機関	研究概要
イチゴの新低温処理育苗技術の開発	農業試験場	○イチゴ苗の新たな低温処理技術を開発 ○オリジナル品種「まりひめ」の早期出荷を目指す
和歌山特産野菜の栄養・機能性評価	農業試験場	○調査品目はイチゴ・ミニトマト・エンドウ等 ○ビタミンA・Cやミネラル成分を分析し、販売促進に活用
エンドウの長期安定増収技術の開発	暖地園芸センター 農業試験場	○エンドウ体内での窒素動態と生育の関係を解明 ○2莢率の向上や養水分管理技術の開発により増収を図る
黄色のモモ新品種「つきあかり」生産技術の開発	かき・もも研究所	○高糖度で日持ちの良い新品種「つきあかり」の特性調査 ○黄色の着色を良くするための栽培技術を確認、全国に先駆けて産地化
極早生柿新品種の特性解明と栽培技術の確立	かき・もも研究所	○新たな極早生柿の特性解明(2品種) ○生理落果の防止及び摘蕾省力化技術を開発
短期肥育による熊野牛の低コスト生産技術の開発	畜産試験場	○肥育前期の飼料等を検討し、短期肥育マニュアルを作成 ○肥育期間を4ヶ月短縮するとともに、肉質向上を目指す
採卵鶏の暑熱ストレス緩和技術の開発	養鶏研究所	○採卵鶏の暑熱ストレスを飼養技術で緩和、産卵率を向上 ○サンショ等の高参加能を持つ素材を飼料に添加
紀州備長炭のブランド力維持と原木更新技術に関する研究	林業試験場	○カシノナガキクイムシ被害木(穿孔木)が備長炭の品質に与える影響を解明 ○窯の種類など製炭方法を検討 ○原木林(ウバメガシ)の更新技術を開発
磯根漁場の生産力強化技術の開発	水産試験場	○高水温適正カジメ・ヒロメを作出、磯焼けで衰退した磯根を回復 ○マナマコ種苗生産技術の開発により栽培漁業を推進

●ラジオ総合相談窓口「ラジオ通じるサポートセンター」開設

- ・地震、津波、台風等の大規模災害発生時の「逃げながら聴く」、「聴きながら逃げる」という状況を想定した場合、ラジオは災害時の最も有効な情報源の一つです。
- ・また、ラジオは、日常生活においても手軽で、身近な情報端末として昔から広く利用されており、県内でもNHK、和歌山放送は、ほぼ全域で聴取できますが、一部地形や周辺環境により難聴取の場所もあります。
- ・このため、県では、災害時において県民が必ず1局以上のラジオ放送を聴取可能とするため「ラジオ通じるプラン」を開始します。
- ・その一環として、ラジオ総合相談窓口「ラジオ通じるサポートセンター」(通称「ラジサポ」)を開設し、5月1日からラジオの難聴取などの相談の受付を開始します。
- ・難聴取の相談を受けましたら、県が現地に出向き難聴取要因を調査し、放送事業者等と連携しながら、必要に応じて外部アンテナの設置の補助などを行います。

○ラジサポで受け付ける相談内容

- ①県内のラジオ難聴取についての問い合わせ
- ②簡単にできるラジオの感度向上の方法
- ③ラジオが聴けない場合の代替メディアの活用方法
- ④災害時におけるラジオの有効な活用方法
- ⑤その他ラジオに関する相談全般

○「ラジサポ」の連絡先と受付時間

①連絡先

- ・和歌山県企画部企画政策局情報政策課
- ・専用電話番号 073-432-3580
- ・情報政策課電話番号 073-441-2407
- ・FAX番号 073-428-1136
- ・メールアドレス radisuppo@pref.wakayama.lg.jp
- ・ホームページ <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/020400/radisuppo/index.html>
- ・facebook <http://www.facebook.com/wakayama.radisuppo>

- ②受付開始日時 平成25年5月1日(水)～ 9:00～17:45(土日・祝日を除く)

●南紀熊野ジオパーク推進協議会第2回総会を開催

・貴重な地質及び地形を有する紀南地域において、県、市町村、教育委員会、地域の商工関係団体、観光関係団体、地質研究者等の産学官が連携して、地域の地質や地形に関する資源を見直し、それらを保全するとともに、教育や観光の振興を図るため、平成25年2月6日に「南紀熊野ジオパーク推進協議会」を設立したところです。

・来年度の日本ジオパーク認定を目指し、4月19日に第2回総会を開催しました。総会の冒頭で、仁坂知事は「早期のジオパーク認定を目指して頑張りたい。」と決意を述べました。

・また、協議会の役員として、既に 鈴木博之 同志社大学元教授に顧問に就任していただいておりますが、今回の総会で新たに名誉顧問に独立行政法人海洋研究開発機構 平 朝彦 理事長、顧問に東京大学大学院 木村 学 教授、アドバイザーに海洋研究開発機構 東 垣 地球深部探査センター長に就任していただきました。

・総会后には、地球深部探査船「ちきゅう」による紀伊半島沖熊野灘での南海トラフ地震発生帯掘削計画も主導してこられた木村教授に、「南紀熊野の大地と地球の進化」と題した講演をしていただきました。



●「稲むらの火の館」で上映する3D映像がリニューアル

・4月16日、広川町にある津波防災教育施設「稲むらの火の館」の津波防災教育センター3Dシアターで上映される3D映像「その日、命をまもるために」が、群馬大学理工学研究院の片田敏孝教授監修のもと完成し、披露会が開かれました。

・披露会では冒頭、片田教授から制作コンセプトの説明をいただき、新しい映像の上映が行われました。その後、仁坂知事は「今回の新作はより実践的な命を救うための3D映像となった。多くの方がこの映像を見て、避難について家族で約束し、お互いを信じて逃げるということに期待したい。また、監修いただいた片田教授ほか、撮影に協力いただいた皆さんに感謝申し上げますとともに、稲むらの火の館がますます栄えることを祈念します。」と挨拶しました。

・新しい映像は、津波の脅威を伝えるだけではなく、東日本大震災で岩手県釜石市の小中学生が自主的に避難してほとんどが助かった「釜石の奇跡」や、家族にかまわずばらばらに安全な場所に逃げることで、自分の命は自分で守る「津波てんでんこ」を徹底することなど、避難行動の大切さを紹介しています。

・そのほか、展示室には、片田教授が提唱する「想定にとられるな」「最善を尽くせ」「率先避難者になれ」の「避難3原則」や東日本大震災後に和歌山県が取り組んだ「避難先の安全レベル設定」などの防災・減災対策を説明するパネルも新しく設置されました。

○「稲むらの火の館」…住所：和歌山県有田郡広川町広671

HP：<http://www.town.hirogawa.wakayama.jp/inamuranohi/>

●インドビジネスセミナー開催

・近年、世界経済が鈍化する中でも経済成長を続け、世界中の関心が高まっている国の1つであるインドに焦点を当てたビジネスセミナーを、4月24日に和歌山県、公益財団法人わかやま産業振興財団、日本貿易振興機構(ジェトロ)主催で開催しました。セミナーの冒頭で仁坂知事は、「日本製品のターゲットとなる購買層が急速に拡大しているインドは、和歌山県企業の販路拡大先としても今後重要となってきます。このセミナーは、まずインドを知ることがを目的に開催されます。」と挨拶しました。

・セミナーでは、最初にジェトロ海外調査部アジア大洋州課の伊藤博敏氏が「インド経済及び進出日系企業の最新動向」と題して、インドの経済情勢や日系企業の動向等について講演されました。

・次に、NPO法人日印国際産業振興協会のドゴガテ・プラシャント氏が「これからインドビジネスチャンス」と題し、インドビジネスチャンスにおける現状や課題等について講演されました。

・参加者は、今回のセミナーでインド市場概況と最近のビジネス動向等について理解を深めるとともに、交流会で情報交換しました。

・県は、今後、インドに販路拡大を求める企業を支援するとともに、今秋には仁坂知事の公式訪問も予定しています。



●大阪・梅田で県産食材を大きくアピール！

・(株)アーマリン近大(西牟婁郡白浜町：達浩康代表取締役)は、4月26日、「グランフロント大阪」内のナレッジキャピタル6階に、「近大卒の魚と紀州の恵み近畿大学水産研究所」という一風変わった名前の養殖魚専門料理店をオープンしました。

・わかやま産品応援店制度に基づき、本県産食材をたくさんの方々を知っていただくために、県内外の加盟飲食店がメニューの開発などでそのPRをしていただきます。

・同店では、近畿大学が世界で初めて完全養殖に成功した「近大マグロ(クロマグロ)」など魚類以外にも、紀州うめどり・うめたまご、あんぼ柿、金山寺味噌など多くの本県食材を使用し、大きくPRされます。また、同時にご当地スイーツ「わかやまポンチ」も提供いただけます。皆様も是非ご賞味ください。

※(株)アーマリン近大…60年あまりの歴史をもつ近畿大学水産研究所が独自の水産養殖技術により、卵から成魚まで一環した管理体制と、薬に頼らないストレスフリーな環境により育てられた優良な魚を、「安全」で「安心」さらに「美味しさの探求」にこだわった魚として広く消費者に販売することを目的に設立された会社です。

○お店の概要は以下のとおりです。

- ・オープン 平成25年4月26日(金)
- ・場 所 グランフロント大阪内(大阪市北区深町3-1) ナレッジキャピタル6階
06-6485-7103 <http://kindaifish.com/>
- ・県産食材 近大マグロ、ブリ、マダイ、カンパチ、シマアジ等の養殖魚
紀州うめどり・うめたまご、あんぼ柿、金山寺味噌、醤油、ぶどう山椒等
- ・メニュー 近大の本マグロと選抜鮮魚のお造り盛り
和歌山産野菜金山寺味噌のバーニャカウダ、わかやまポンチほか多数
- ・ラ ン チ 御膳(和歌山すさみ豚角煮ご飯等5種類)、井もの(本マグロ三色井等4種類)



近大の本マグロと選抜鮮魚のお造り盛り



和歌山産野菜金山寺味噌のバーニャカウダ



わかやまポンチ

わかやまポンチとは、和歌山産の梅と果物を使ったフルーツポンチです。

「和歌山県観光振興実施行動計画アクションプログラム 2013」 を策定しました！

＝和歌山県観光振興実施行動計画＝アクションプログラム2013＝

◆アクションプログラム2013の重点的取組◆

わかやま観光リレーキャンペーンで売り出す、招く、もてなす

～伊勢神宮式年遷宮、世界遺産登録10周年、高野山開創1200年、

紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の取組推進～

- ◆伊勢神宮式年遷宮から和歌山へ招く、もてなす
 - ・全国の主要な神社や旅行会社の訪問など神社関係に対する取組の継続
 - ・一般参詣者対策として「お伊勢参り」を契機とした「熊野詣で」のメディア露出の推進と旅行商品化
 - ・ガイドブック&専用サイト「熊野詣で指南書(仮)」による情報発信
- ◆和歌山デスティネーションキャンペーン(わかやまDC)で売り出す、招く
 - ・特別企画、新たな観光資源の開発
 - ・「プレ・和歌山デスティネーションキャンペーン」の実施…9/14～12/13 開催
 - ・「全国宣伝販売促進会議」の開催…10/2～4 全国からメディア、旅行会社約300名が参集
- ◆高野山開創1200年を売り出す、招く
 - ・各種プロモーション事業でのPR
 - ・「高野山開創1200年誘客アクションプログラム」の策定
- ◆「紀の国わかやま国体」・「紀の国わかやま大会」で招く
 - ・和歌山おもてなしトイレ作戦…観光地のトイレの大便器の洋式化、温水洗浄便座の設置など
 - ・和歌山おもてなし宣言(仮称)…県民から「おもてなし宣言」をしていただく方を募集・登録、研修会の実施



和歌山を売り出す ～トレンドへの対応と新たな魅力の創造～

- ◆世界遺産で和歌山を売り出す
 - ・参詣道の新たな魅力づくり…「四季」「雨の日」「早朝」「夕刻」等のテーマ毎の楽しみ方を提案
 - ・「高野七口」「熊野古道紀伊路」へのスタンプ台の設置、押印帳の製作
 - ・高野・熊野間の二次交通の利用促進と運行拡大
- ◆ほんまもん体験で和歌山を売り出す
 - ・「絶対行きたくなる体験観光プログラム作り」…地域、宿泊施設等との協働による予約、案内、情報発信ソフト事業

◆自然の素晴らしさで和歌山を売り出す

- ・サイクリングでの誘客促進…紀の川周遊サイクリングの情報発信、「わかやまサイクリング旅(仮)の提案」

◆ブランドで和歌山を売り出す

- ・5頭のパンダや駅長「たま」による誘客
- ・観光PRシンボルキャラクター「わかぱん」の積極的露出、わかやま応援館(岡山：両備グループ)での発信
- ・まんが観光イメージキャラクターの設定と情報発信

和歌山へ招く ～ターゲットごとのプロモーションと大都市圏・海外からの誘客と強化～

◆ターゲットごとのプロモーションで和歌山へ招く

- ・若い女性層をターゲットの中心とした誘客戦略の展開…女性誌を中心としたメディア展開、姫旅(女子旅)の提案
- ・大手企業とのタイアップ…企業のパブリシティ能力を活用
- ・企業CSR、年金旅行、修学・教育旅行の誘致

◆首都圏から和歌山へ招く

- ・首都圏PRイベント「和歌山に行ってみよう！キャンペーン2013(仮称)」の実施
- ・メディア・旅行会社対策、わかやま講座の開催

◆近畿、東海、西日本から和歌山へ招く

- ・鉄道・高速道路・フェリーとのタイアッププロモーション…京阪神、東海、西日本などの大都市において、メディア、旅行会社、消費者を対象に複合プロモーションを実施
- ・新たに南九州(九州新幹線・LCC)、北陸(DCに向けて)にて実施
- 北海道・東北(JAL乗継割引、LCC)、四国(高野山開創1200年)を充実

◆海外から和歌山へ招く

- ・国別の嗜好と旅行熟度に合わせた誘客活動の強化、個人旅行化にも対応した情報発信と環境整備

和歌山でもてなす ～おもてなしの宿づくり・ひとづくり支援～

◆国体に向けたおもてなしの体制づくり

- ・和歌山おもてなしトイレ大作戦

◆和歌山おもてなし県民運動

- ・わかやまおもてなし宣言(仮称)

◆外国人個人観光客に対応した環境整備

- ・エリアパスの利用促進…バス利用区間や協賛施設の充実
- ・個人旅行客向けガイドブックの充実…仏・西版ガイドブックの制作

◆交通事業者のおもてなし向上

- ・タクシードライバーの研修…優良タクシードライバーの養成、接客接客研修の実施



アクションプログラム 2013

和歌山県農水産物・加工食品の販売促進戦略 を策定しました

■ アクションプログラム2013の概要

1. おいしい！健康わかやまの魅力発信

こだわりの栽培が自慢の農産物、確かな技術に裏打ちされた伝統食材、体にうれしい機能性を多く含む食材など、和歌山は食の宝庫です。全国の消費者に「おいしい！健康わかやま」を知らしめる効果的なPRとして、統一的なイメージ戦略を仕掛けます。

◆ 『おいしい！健康わかやま』のイメージ定着戦略

- ・「わかやま」＝「健康」「元気」「美容」といったイメージを持ってもらうため、イメージを想起させるシンボリックなキャラクターに体操の田中3きょうだいをオフィシャルサポーターとして起用、PRを実施
- ・消費者体験型イベントで和歌山ファンを獲得するため、全国の消費者を対象に「紀州の梅干食べて、すっぱい顔コンテスト」開催



◆ 大手企業とのコラボレーション

- ・日清食品「行列のできる店のラーメン」シリーズの新商品を共同開発など、好感度が高く信頼力のある大手企業とのタイアップで、「おいしい！健康わかやま」の魅力首都圏はじめ全国に発信
- ・大手料理教室「ABC Cooking Studio」でのワークショップ開催

◆ わかやまファンのネットワークづくり

- ・和歌山の食材の素晴らしさを伝えるため、「Face to Face」で首都圏をはじめ全国の方々に『わかやまファン』になってもらい、その魅力を発信いただくためのアプローチを実施

◆ トップセールス

- ・日本一を誇る主要果実を全国に情報発信するため、農産物等の旬を捉え「おいしい！健康わかやま」をPR



香港トップセールスでの食材提案

2. 有利な販路の開拓

少子高齢化などで全国の至る所で地域経済が縮小していく中、将来を見据えて、東京などの大都市やアジアの新興国など輸出先として有望な国々への販路開拓はますます重要な課題です。国内はもとよりグローバルな視野で、県内生産者が儲かる有利な販路開拓を目指してチャレンジします。

<国内編>

◆高級レストラン等外食産業との連携強化

- ・ホテル日航大阪、阪急百貨店うめだ店「まちから食堂」でのフェア開催など、情報発信力のある高級レストランや有名シェフとタイアップ

◆全国主要都市での和歌山フェアの開催

- ・本県の主要農産物の有利性を活かし、全国規模で和歌山県産品の消費拡大を図るため、4大都市のJA特約店で加工品や観光情報を加えたオールわかやまフェアを開催

<海外編>

◆県内事業者の海外向け営業活動を支援

- ・東南アジアでの販路開拓のため、香港フードエキスポへ出展するなど、県内事業者の海外での営業活動を支援

◆わかやまフェアの開催

- ・海外高級百貨店で和歌山フェア実施に加え、果実輸销量を増やすため、高級量販店での店頭販促活動を強化



7月シンガポール和歌山フェア

3. 売れるモノづくりへの支援

本県には、職人の技が冴える伝統食品のほか、近年では豊富な果物を活かした加工食品づくりなども盛んになってきました。現役バイヤーを招いて商品のブラッシュアップや消費者視点に立ったモノづくり、品質管理の徹底など、県内生産者の「売れるモノづくり」を支援します。

◆生産者支援セミナー(FCP 和歌山ランチ)の開催

- ・新たな商品開発から、安全・安心の具体的な手法、商談ノウハウの提供まで、“売れるモノづくり”を総合的に支援

※FCP 和歌山ランチ…「食」に対する消費者の信頼向上のため、農林水産省が平成20年度に立ち上げた「フード・コミュニケーション・プロジェクト(F C P)」の和歌山県版取組。バイヤーが求める情報を効率的に盛り込んだ商談会シートを活用して企業力アップを図るなど全国に先駆けた取組みを展開。

◆食料産業クラスター(異業種連携)の形成

- ・紀州うめの幅広い活用を目指すため、「紀州梅バーガー開発研究会」を核として様々なうめの新商品づくりを推進



たなべサンド

詳しくは食品流通課ホームページをご覧ください。

(<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/071700/index.html>)

「わかやま産品販路開拓アクションプログラム2013」を策定しました！
和歌山県工業製品の販売促進戦略
～ものづくり王国「和歌山」を全国に、そして世界に～

■ 2013年度の重点取組

1. 商談機会創出

○県内企業の商談の機会を創出

- ◆専門的な国内・海外展示会への集団出展
 - ・メゾン・エ・オブジェ 2013(パリ)：世界最大級のホームファッション見本市
 - ・香港・ハウスウェア・フェア(香港)：アジア最大級の日用品見本市
 - ・東京インターナショナル・ギフト・ショー：パーソナルギフトと生活雑貨の国際見本市
 - ・インターネプコン ジャパン：エレクトロニクス製造・実装に関する展示商談会
- ◆国内での商談会開催
 - ・大企業へ出向いての展示商談会
 - ・わかやま産品商談会
- ◆海外での調査等の支援
 - ・北米、アジア、欧州、トルコ等における展示会の調査など、将来、海外での展示会出展を希望する県内企業向けの支援
- ◆グローバル人材確保ネットワーク支援
 - ・グローバル人材確保に関する県内企業からの相談に対応
 - ・成功例となる企業・現地関係者等によるセミナーを開催
 - ・「タイ」・「ベトナム」等アジアの大学生をターゲットとした現地での面談会を開催
- ◆海外バイヤーの招へい
 - ・ジェットロと連携し、世界各国からのバイヤーを招へいた商談会を開催することで、テキスタイル素材の海外市場参入を促進
- ◆首都圏での活動拠点の提供
 - ・積極的な首都圏展開を目指す企業に、営業拠点となる東京都内のレンタルブースを提供
- ◆関西広域連合との連携
 - ・大企業とのビジネスマッチング商談会の開催
 - ・海外企業とのビジネスマッチング商談会の開催
 - ・国内外での工業製品や地場産品等のプロモーションの実施
 - ・「みつかるネット関西」の運営(受発注ビジネスの域内検索・あっせんの仕組み)



2. ものづくりと販売力の強化

- 地場産業の新しいブランドづくりや地域の資源を活用したものづくりなどを支援
- 販路開拓に取り組む企業への相談体制や各種セミナーの開催など支援機能の強化
- ◆地場産業の新しいブランドづくりへの取組支援
 - ・企画・提案型のビジネスモデルを目指そうとする産地企業の取組を支援

- ◆地域資源を活用したものづくり支援
 - ・地域資源を活用した商品開発や新サービスの開発に付随する販路開拓の支援
 - ・中小企業と大学・公設試験研究機関が連携した商品開発等に付随する販路開拓の支援
- ◆産地組合の販路開拓活動支援
 - ・国の事業を活用して、世界に通用するブランド力の確立を目指す産地組合を支援
- ◆海外進出への相談体制の充実
 - ・和歌山国際経済サポートデスクの設置
 - ・中国ビジネスコーディネーターによる現地アドバイス
- ◆海外進出セミナーの開催
 - ・貿易実務等の講座開催やジェトロ主催セミナーの活用
- ◆県内企業の情報発信
 - ・受発注情報の収集・提供による取引支援
 - ・ホームページを活用した県内企業の情報発信
- ◆サービス産業県外市場開拓の支援
 - ・県内サービス事業者が県外進出を検討する際にマーケティング調査を支援
 - ・県広報媒体を活用した認定事業のPR



3. プレミア和歌山のブランド力確立と強化

- 和歌山県優良県産品(プレミアム和歌山)推奨制度のブランド力確立のために、マスメディアとのタイアップ等による知名度向上
- 首都圏での高級スーパーへの出店など販路開拓の強化
 - ◆プレミアム和歌山の認定
 - ・プレミアム和歌山推奨品認定制度の充実
 - ◆プレミアム和歌山の認知度の向上
 - ・食品流通課等と連携を強化し、商談会・展示会への積極的な出展
 - ・各種新聞社、TV局、雑誌社等とのタイアップの促進
 - ◆プレミアム和歌山の販路開拓の強化
 - ・首都圏高級スーパーへの出店支援
 - ・プレミアム和歌山プロデュース



4. 伝統工芸品産業の振興

- 新たな和歌山県郷土伝統工芸品の指定
- 後継者育成のための助成制度の設置
 - ◆伝統工芸品の指定とPR
 - ・郷土伝統工芸品の指定、伝統工芸品のPR
 - ◆伝統工芸後継者の育成支援
 - ・伝統の技術・技法の継承のための技術指導を受ける者の人件費の一部を助成
 - ◆伝統工芸品全国大会の開催
 - ・11月を「伝統的工芸品月間」と定め毎年開催

詳しくは企業振興課ホームページをご覧ください。

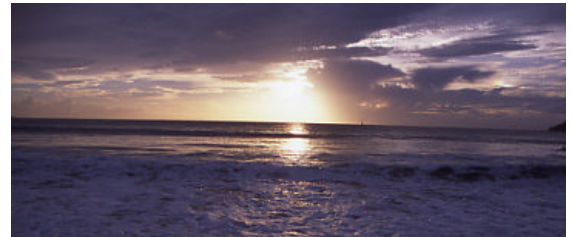
<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/061000/homepage/index.html>

～日高町～

気候は温暖で、耕地は肥沃であり良質の米や野菜を生産し、山間部は果樹の生産地として気象条件、地質とも恵まれています。海岸線は浜部と岩礁部からなるリアス式海岸で、風光明媚な海岸線を形成し、良好な漁港が立地しています。また、歴史的資産である熊野古道をはじめ、全国的にも希少な黒竹の栽培が見られるなど、豊かな自然環境とともに、特色ある地域資源にも恵まれています。

きれいな海

・産湯海岸をはじめ、方杭、柏など素朴でほのぼのとした遠浅の海岸がいくつもあります。また、一年を通じて釣り人が絶えない日高の海は、アジ、サバ、イワシ、タイなど魚種も四季を通じて豊富です。



クエ

・日高町のシンボルとして、なくてはならない魚です。かつては幻の魚と言われていましたが、町内の旅館や民宿で郷土料理として提供されるうちに、町の名物となりました。

・都会の魚屋さんではあまり見かけることはないですが、昔から地元の漁師の間では「クエ食ったら、ほかの魚はクエン」とまで言われてきたように、その味は絶品です。

・旬は冬ですが、近畿大学水産研究所(白浜町)が、20年がかりで養殖技術を確立し、南紀白浜温泉では年間を通して安定的に新鮮なクエが楽しめるようになりました。

・また、日高町阿尾の白鬚神社では、毎年10月にクエ祭が行われます。体長1mもある大きなクエの干し物を丸太につるし神殿へ奉納しようとする当屋衆(とうやしゅう)と、それを阻止しようとする若衆(わかしゅう)が、クエの御輿をめぐるみ合うケンカ祭りです。



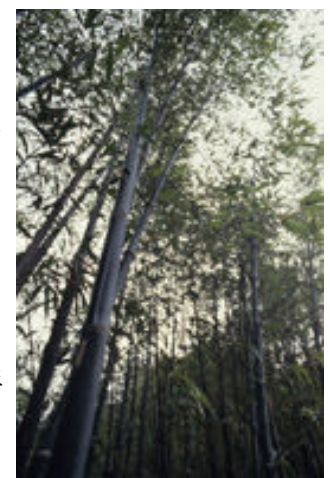
黒竹

・淡竹(はちく)の一種で、青竹と比較して幹が細く、外皮が黒いのが特徴です。

・日高町原谷地区で、明治初期から黒竹の植林が始まりました。

・独特のつやと、風雅な趣があることから、釣り竿や家具の装飾に使われるなど、生活に密着した日用品として発展してきました。

・近年、高齢者が中心となって、黒竹の工芸品化に取り組み、花立て、壁掛け、置物などがおみやげ品として人気を呼んでいます。



日高町ホームページ <http://www.town.hidaka.wakayama.jp/>

～編集後記～

木々の緑もひとときわ色濃くなってくるとともに、吹く風も爽やかになり、過ごしやす季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

4月中は夏日の暑い日があったかと思うと3月並みに寒い日もあるなど、寒暖の差が激しいと思えば、4月13日早朝には、和歌山市など県内4市6町でも震度4を観測した淡路島地震が発生し、市内でも揺れが大きく一瞬緊張するなど自然に翻弄された1ヶ月でした。

今回の地震を含め、日本各地で大きな地震が起こっており、改めて、いつか和歌山県でも大きな地震がやってくると実感しました。

しかし、恐れるばかりではなく日頃から防災・減災を心がけておくことが大切です。

我が家では、まだまだ家具の固定や非常持ち出しリュックの準備、避難場所や家族との待ち合わせ場所の確認など、充分ではなく反省しているところです。

しかし、「備えあれば憂いなし」と安穩と構えてはいられません。災害は忘れた頃にやってきますし、予想を超える規模の地震が起こる可能性もあります。

本紙の「稲むらの火の館」の記事でも紹介しました片田教授は「逃げなければいけないとわかっていることと、その時に本当に逃げられるかは別物だ」とおっしゃっています。つまり、普段から地震が起こったらこうしようと心がけていても、いざとなれば行動できるかどうかわからないし、ましてや、普段から備えを怠っていれば、いざというときは何も行動できないということだと思えます。

仕事に臨むに当たっても備えを万全にし、いろいろな局面にも対応できるよう心がけたいと思います。

さて、皆様のお手元にこの「和歌山だより」が届きますのは、大型連休も終わった頃だと思えますが、皆様方には、気分をリフレッシュしそれぞれ新緑の季節をお楽しみ下さい。

知事室秘書課長 森田 康友

★「和歌山だより」Web版を和歌山県ホームページにアップしています。Web版ならではの美しい画面を楽しんで頂けますので是非ご覧下さい。

和歌山だよりに対するご意見・ご感想をお聞かせ下さい。また、皆様がお持ちの和歌山に関する情報をご提供下さい。今後、皆様のお声を紙面づくりに活かしていきたいと考えています。

(下記のFAX(様式自由)、E-Mail等でお願ひします。)

■FAX 073-422-4032

■E-mail e0001003@pref.wakayama.lg.jp

和歌山県のホームページ

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/>

ふるさと和歌山応援サイト <http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/furusato/>

*個人情報につきましては、「和歌山だより」の発行以外の目的には、使用いたしません。



2013年(平成25年)5月 NO.6 1

和歌山県 秘書課

〒640-8585 和歌山県和歌山市小松原通1-1

TEL 073-441-2022